

高等部 第1学年〇組 生活単元学習 学習指導案

日 時 〇月〇日 (〇) 〇校時場

所 高等部 1年〇組教室

指導者 T1〇〇 〇〇 T2〇〇 〇〇

T3〇〇 〇〇

- 1 単元名 働くこと、働くために②（事業所や施設を見学しよう）～見学先へ電話しよう
- 2 単元の目標
 - (1) 卒業生の進路先や見学先の情報を得たり、卒業後の生活を想像したりする学習を通して、どんな特徴（働く場、生活する場、食事、送迎、リハビリ等）がある進路先を希望するのかを考える。
 - (2) 社会人として覚えておきたいマナーがあることを知る。

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本学級は男子5名で構成されている。生徒全員が車椅子を使用しており、自力操作で移動する生徒が3名（2名は手術後による使用であり、内1名は10月末に転入した生徒である。）、移動支援を必要とする生徒が2名在籍している。コミュニケーション面に関しては、それぞれが発音の明瞭度や語彙数などに違いはあるが日常的な会話はできる。

進路希望先は一般就労や就労継続支援、生活介護、及び施設入所等と挙げられているものの、具体化していない。卒業後の生活について生徒自身は、前期実習（校内実習）や1学期に実施した職場・施設見学を通して少しずつ考えるようになっており、4月当初の進路希望が変化してきた生徒もいる。

しかし、必要な情報を自分から収集しようとする等、主体的に考えて行動することは消極的であり、提供された情報を受動的に受け止めている段階である。

(2) 単元について

前単元である「働くこと、働くために①」（6月）では、自分の将来について考えるきっかけづくりとして、学校や社会で働く社会人の先輩へインタビューする学習を行った。同時に、前向きな自己理解を進め、自己有用感が得られるように、お互いのよさや、持ち味を伝え合うようにした。また、学校で自分ができていることは卒業後の「はたらく」や「くらし」にも生かせることを体験から気付けるような学習展開を心掛けた。家庭にも協力してもらいながら家事についての学習を取り入れ、家族の中での役割を知り、家族に評価してもらうことで働く喜びの一端を知る機会も大切にしてきた。誰かに支援してもらい、与えられることが多くなりがちな生徒たちが、参加する喜びや働く喜び、責任感、周囲と協調することの大切さを感じることは、主体的な社会参加に向けて必要と考えたからである。

生徒たちそれぞれには理想の生活への夢があり、その夢を語る時の表情はとても生き生きとしている。これまでの学習経験を通して、生徒たちは夢やそれを大切に育みつつ、それだけではなく卒業後の生活はどうなっているのか、どうしたいのか等の希望についても少しずつ考えられるようになってきた。そこで、本単元では前単元での学習を踏まえ、主体的な社会参加に向けて、自分の卒業後の生活についてのイメージを具体化して考えられるようにしたい。様々な事業所や施設の見学を通して、自分の見学先のことを調べたり、分からないこと、知りたいことを質問したりできるよう、自分のこととしての意識を高め、主体的に準備を進める時間を大切にしたい。見学先へ電話で依頼したり、見学に向けて必要なマナーを確認したりする体験活動を取り入れながら、社会人として周囲と協調する大切さや意義を実感できる学習を展開したいと考える。

(3) 指導について

- ・ 見学先での様子を自分なりにイメージして行動できるように、実際に活動して表現したりしやすい手法として、具体的な場면을想定しての寸劇やロールプレイを取り入れる。
- ・ 自ら行動し、積極的に学習に参加しやすいように、学習の流れや配置はある程度固定化し、生徒が活動しやすい動線や配置を確保する。
- ・ 生徒が自らの問いや気付いた事柄を伝えられるように、生徒の言葉を使って状況説明や要点整理を行う場面を大切に考え、まとめの感想発表等では自由な発表だけではなく、個によっては授業におけるポイントやキーワードを入れて学習したことをまとめた上で発表するよう伝える。
- ・ 板書の文字等が見えにくい生徒へはタブレット端末等を活用し、視覚的配慮をする。
- ・ 自分なりに工夫しながら役割を果たす活動が人の役に立っていることに気付けるように、認め合ったり、感謝し合ったりする言葉や場면을大切にする。

4 本単元における生徒の実態及び目標

氏名	実態	目標
A 男	<p>学習に対する態度は真面目で意欲的であり、全体の指示や説明を聞いて返事をする。しかし、経験不足等から内容を理解することが難しい場面もあり、繰り返しの説明や実際の体験活動が必要となる。</p> <p>入学当初は一般就労を希望していたが、就労継続支援も視野に入れて考えるようになり、前期に見学した施設への進路を希望している。</p> <p>相手に対して丁寧な言葉で話ができるものの、最後まではっきり話すことが難しく、口ごもることが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点での卒業後の進路先の希望を、具体的な理由も交えながら言葉で伝える。 ・ 様々な場面でのマナーを意識した体験活動に挑戦する。
B 男	<p>学習に対する態度は真面目で意欲的であり、全体の指示や説明をある程度理解し、積極的に発言する。漢字の読み取りが難しい場合もあるので配慮を要する。人（特に大人）の表情や様子をよく見ており、周囲を楽しませようと気を配ることができる。</p> <p>前期は入所施設の見学を経験したが、後期は本人も保護者も働く活動がある通所施設も視野に入れた見学を希望している。</p> <p>声量の調整は難しいものの、状況を意識しての会話ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の進路先のイメージをもち、見学先を選択する。 ・ 話を聞く際には相手の顔を見る等のマナーを意識する。

C 男	<p>学習に対する態度は気分によって左右されることが多い。4月当初の生活単元学習では卒業後のことや大人になることへの不安感や抵抗感からその場から逃げようとするこもあつたが、現在は前向きに将来の夢を楽しそうに語ることが多くなつてゐる。</p> <p>前期の施設見学ではとても緊張してゐたが、学習したことを生かし、真剣に取り組むようになってきてゐる。</p> <p>空想や想像をすることを楽しみ、様々な場面をイメージ化できるため、寸劇やロールプレイの学習は好きな活動の一つである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに卒業後の生活について考え、見学での目標を言葉にする。 ・様々な場面でのマナーを考え、寸劇の指摘ポイントに気付く。
D 男	<p>学習に対する態度は真面目で意欲的であるが、友達への遠慮や自信のなさから積極的な発言は少ない。中学校からの入学生徒であるが、友達のよさを発見し伝える優しさがあるため、すぐなじんだ。</p> <p>卒業後は座つて行う仕事としてパソコンを使った一般就労を目指してゐる。前単元での社会人の先輩から話を聞く学習の影響を受け、将来のことを具体的に考えるようになってきてゐる。</p> <p>携帯電話を所持してゐるが、入院生活のため使用する機会は限られており、メール利用が中心となつてゐる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活についての希望を具体的に考え、今何をすべきか気付く。 ・体験活動を通して、自分で活動する必要性を実感する。
E 男	<p>手術のために入院したばかりであり、環境が大きく変わった状況であるが、落ち着いて自分の置かれた状況や周囲の様子をよく観察してゐる。優しく、穏やかな性格であり、学級内の生徒の意見をよく聞き、協調しようとする様子が見られる。</p> <p>働くために必要なことの学習を積み重ねてきたことで、卒業後の進路についてのイメージをもつてゐる。</p> <p>電話の利用経験はほとんどなく、病棟から家族へ電話をかけることもあまりない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路先の希望について理由を加えながら言葉で伝える。 ・体験活動を通して社会人としてのマナーで分かつたことを発言する。

5 指導計画 (総時数 26 時間)

指導計画	主なねらい	主な学習内容	時数
1 前期の施設見学を思い出そう。	・前期に見学した事業所や施設の概要を思い出し、伝える。	○前期に見学した事業所や施設の特徴をまとめる。 ・前期実習や施設見学での活動を振り返る。 ・見学した事業所や施設の特徴を表にまとめる。	2
2 後期の見学先について調べよう	・様々な施設の特徴に関心をもつ。	○どんな施設を見学したいか考えよう。 ・卒業生の進路先を知る。 ・それぞれの施設の特徴を知る。 ・見学したことのある先輩の感想を聞く。	4
	・自分が見学する事業所や施設について関心をもつて調べる。	○自分の見学先を知ろう ・どこにある? 地図で確認しよう。 ・パソコンで調べたことをまとめよう。	4
3 見学先へ電話しよう	・電話対応のマナーを知る。 ・聞きたいことをまとめ、電話で聞く。	○電話で見学依頼をしたり、事前に知りたいことを確認したりするための練習をしよう。 ○見学先へ電話をしよう。 ○分かつたことをまとめよう。	6 (本時 4/6)
4 見学のポイントを考えよう	・自分で調べて関心をもつたところ、確認してきたいところを発表する。	○自分が行く施設について調べたことや、見学のポイントをまとめ、発表しよう。	1
5 見学マナーを確認しよう	・見学先での場面を想定し、マナーを意識した活動をする。	○相手の気持ちや周囲の状況を考えて行動しよう。	1

6 施設見学へ行こう	・疑問や関心があることを確認する。	○見学先の様子を見学のポイントに沿って確認しよう。	6
7 分かったことをまとめよう	・見学して分かった事や印象のよかった見学先について発表する。	・分かったことや感想をまとめる。 ・今後、実習してみたい見学先を考え、その理由も加えてまとめる。	2

※マナーについての学習は様々な指導場面で繰り返し取り上げながら、確認する機会を設ける。

6 本時の実際

(1) 目標

- ①電話対応のマナーがあることを知る。
- ②見学を依頼するための話し方や知りたいことを聞くための話し方等の言葉を整理する。

(2) 個別の目標及び評価の視点

生徒	本時の目標	評価の視点
A	・相手の話を聞いて応答する。 ・最後まではっきり話して用件を伝えられるよう、原稿を作る。	・返事をしながら相手の話を聞いたか。 ・原稿の印を確認しながら最後まではっきり話したか。
B	・原稿を基にしっかり相手に伝える。 ・依頼原稿を教師に相談しながら作り上げる。	・一方的に話さずに、相手の話も聞いたか。 ・原稿を作るために言葉カードの順番を考えて並べられたか。
C	・寸劇の指摘ポイントを見付け、言葉で正しい方法を表現する。 ・言葉カードを活用しながら話す言葉を考える。	・寸劇の間違いを見付け、どうすればよかったのか、正しいマナーを言葉で表現できたか。 ・側にいる教師に電話で話す言葉を伝えたか。
D	・相手の連絡を確認できるように、メモを取りながら話を聞く。 ・電話対応のマナーを意識し、やりとりする。	・メモを取りながら話を聞いたか。 ・相手の話に戻事をしたり、自分の用件をしっかりと伝えたりできたか。
E	・相手の話を聞く際は返事をして、メモを取りながら確認する。 ・状況設定を理解し、電話対応のマナーで分かったことを表現できたか。	・必要に応じてメモを取りながら、返事をして確認できたか。 ・電話対応のマナーで分かったことを、言葉で表現できたか。

(3) 展開

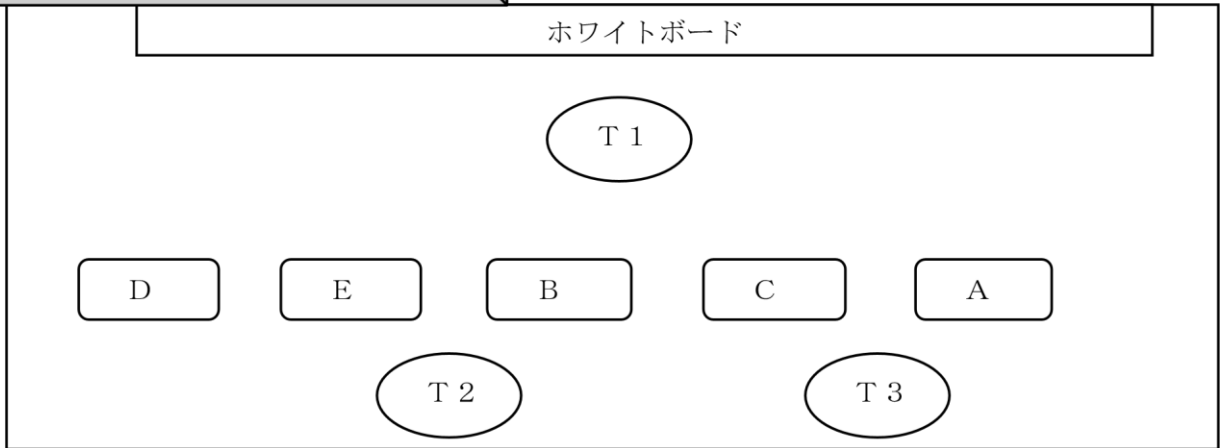
時間	学習活動	教師の主な支援	準備物
----	------	---------	-----

5分	1 本時の学習について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 本単元の学習の流れに見通しをもちやすいように、予定表を用いて本時の学習内容を確認する。 目標をもって学習に取り組めるよう、次時（本番）へつながる本時（練習）であることを説明し、本時のめあてを確認する。 	予定表
40分 (15分)	2 電話のマナーを知る。 ①見学先へ用件を伝えるために話すべきことや話し方、マナーを考える。 <ul style="list-style-type: none"> 寸劇を見る。 電話を受ける側を体験する。 直すべきところに気付き、発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話の対応によって相手への印象が大きく変わること、相手に失礼のないように電話の上手な使い方、話し方があることに気付けるよう、教師による寸劇を提示してから、ロールプレイで実際に正しい電話応対を体験する場面を設定する。 寸劇が始まるのが分かりやすいようカチンコを提示し、配置につくよう伝える。Eは転入して間もないためT2が支援し、移動する場所を伝える。T3は演じる場所の設定をする。 寸劇ではマナー違反の部分が分かりやすいよう、T2、T3は大げさな演技やリアクションをする。 電話のマナーやあいさつ、言葉遣いの大切さに気付けるよう、寸劇の各シーンでは電話を受ける側の体験場面を設け、印象や、どんなところを直すべきか発問し、出た意見を板書する。 Cが板書の内容を理解しやすいようにタブレットを用いて文字を拡大したり、カードを提示したりする。(T3) 	カチンコ 携帯電話 家庭用電話 カード
		【寸劇シーン①】 相手が電話に出ても「あの一…」としか言わない。	
		【寸劇シーン②】 あいさつもせず、一方的に用件だけを言い、ガチャンと切る。	こ
		<ul style="list-style-type: none"> 見学先へ見学の依頼をするために伝えるべきことがあること気付けるよう、ヒントとして「いつ」「だれが」「何のため」のカードは文字を部分的に隠して提示する。 	
		【寸劇シーン③】 用件に対して返事もせず、確認できているのか分からない。	

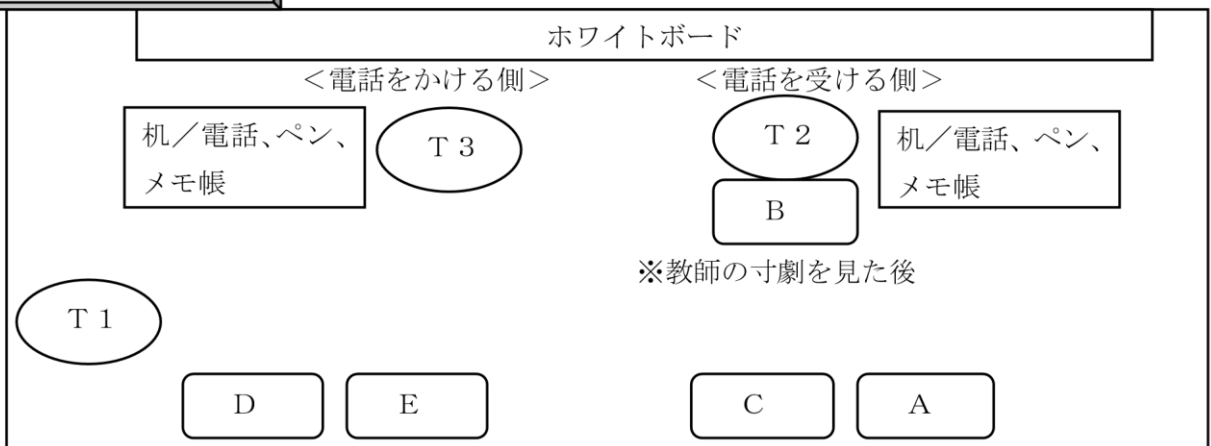
<p>(10分)</p>	<p>②原稿を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手とは返事や質問等やりとりをしながら、確認する必要があることに気付けるよう、指摘ポイントが分からなかった場合はどこに注目すればよいのか伝えてから、再度寸劇を提示する。 ・マナーを意識しつつ、用件を伝えられるような原稿として、話す順番を考えやすいよう、穴埋めのシートを準備する。書字が苦手な生徒（B、C）は言葉カードを貼り付けられるようにする。 ・Bが話す言葉を考えやすいよう、言葉カードの提示枚数を少なくしたり、比較しやすい言葉を提示したりする。（T2） ・質問したいことはないか考えるよう伝え、主体的な活動を促す。 	<p>原稿作成用シート</p>
<p>(15分)</p>	<p>③電話で見学の依頼をする練習に挑戦する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して本番に臨めるよう、全員が練習することを伝える。時間内に全員終われなかった場合は、次時の本番前に必ず行うことを伝える。 ・受話器を持ち上げることが難しい生徒（C）にはボイス機能を活用する。 ・Aが最後まではっきり話すことを意識できるように、原稿の語尾の部分に印を付ける。（T3） ・Dがメモを取る必要性に気付けるよう、相手からの連絡項目を幾つか加え、覚えることが難しい場面を設定する。（T2） 	<p>マナーカード</p> <p>言葉カード</p>
<p>5分</p>	<p>3 まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感想発表では本時の学習で分かった事等を交えるよう伝える。 ・「発表のポイント」を思い出して発表できるよう、教室に掲示しているカードを指し示す。 	<p>携帯電話</p> <p>マーカー</p> <p>メモ帳、</p> <p>筆記用具</p>

(4) 配置図

学習活動1 (導入)、3 (まとめ) の場合



学習活動2 ①②の場合



学習活動2 ③の場合

